MINOLTA

VECTIS 25

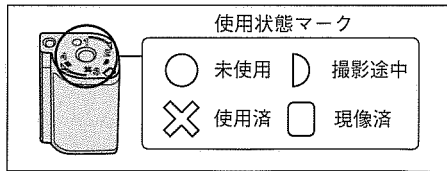
J 使用説明書

お買い上げありがとうございます。
このカメラは、カプセルタイプのボディに30-75㎜の2.5倍ズームレンズを内蔵した、アドバンストフォトシステム(以下新システムと言います)対応のフルオートコンパクトカメラです。

このカメラを十分に活用していただくために、この使用説明書をご使用前によくお読みください。
またお読みになった後は、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。

新システムの特長

①フィルム装填が簡単になりました

新システムのカメラでは「IX240カートリッジフィルム」を使用します。この新フィルムはフィルム部分がすべてカートリッジの中に入っていますから、フィルム室にポンと入れるだけの簡単操作でカメラに装填できます。
また、使用状態マークでフィルムの使用状態を一目で見分けることができます。

②3種類のプリントタイプが選べます

新システムのカメラでは、プリントのタイプをCタイプ、Hタイプ、Pタイプの3つから選べます。また、1本のフィルムの中で自由に切り替えることができます。

③新システムのカメラではこんなことができます

日付印字機能、タイトル印字機能（P.56～P.69）

日付や時間をプリントの裏表両面または裏面に印字することができます。また、“タンジョウビ”などのタイトルをプリントの裏面に印字することができます。

プリント画質向上機能（P.78）

撮影したときの光源の情報などがフィルムに記録され、その情報をもとにプリントされますので、色や明るさなどのプリント画質が向上します。

※現像・プリント取扱店によっては、一部機能に対応していないところもあります。

④現像・焼き増しも簡単です

お店に現像・プリントを依頼されると、フィルムはカートリッジに入った状態で、インデックスプリント（1本のフィルム内のすべての写真を、まとめて1枚にプリントしたもの）といっしょに返却されます。

このインデックスプリントを見れば、撮った写真を一目で確認でき、焼き増ししたいコマの指定も簡単に行えます。

目次

撮影シーンセレクター編

こんなこともできます編

付録

正しく安全にお使いいただくために

●絵表示について

この使用説明書には、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を用いています。絵表示の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告	この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視した取り扱いをすると、人が重傷を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

●絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。
△の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⃠記号は、行為を禁止する内容を告げるものです。
⃠の中に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

安全上のご注意

●使用する前にすべての説明を読み、よく理解して正しく安全に使用してください。

警告

火傷の恐れがあります。
フラッシュ発光のとき、発光部が大変熱くなります。
発光部に皮膚や物を密着させた状態で、発光させないでください。

失明の恐れがあります。
ファインダーを通して直接太陽を見ないでください。

火災の恐れがあります。
直射日光の当たる場所に放置しないでください。
太陽光が近くのものに結像すると、火災の原因となります。

⚠注意

けがの恐れがあります。ファインダーをのぞきながら歩かないでください。つまづいたり、転倒するなどけがの原因となります。

一時的な視力低下の恐れがあります。人や動物の目に近づけてフラッシュを発光させないでください。特に乳幼児を撮影される場合は、フラッシュの最短撮影距離以上離れてください。

感電の恐れがあります。

●落としたり、損傷させて内部が露出した場合は、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。また内部に手を触れないでください。

●分解しないでください。

修理や分解が必要な場合は、サービスセンター・サービスステーションにご依頼ください。内部の高圧回路に触れると、感電の原因となります。

電池に関する警告

破裂の恐れがあります。電池に記載されている注意書きをお守りください。
電池の注意書きを無視して使用すると、破裂や爆発の原因となります。

電池の液漏れ・発熱・破裂の恐れがあります。次のことは絶対にしないでください。

- ●電池の極性（＋／－）を逆に入れる。
- ●表面の被膜の破れた電池を使用する。
- ●火中への投入や充電、ショート、分解、加熱。

ご自分で判断のできない方、あるいは、幼児・児童の近くでご使用になる場合は、以下の点にもご注意ください。

警告

●目の前でフラッシュが発光し、一時的な視力低下を起こす
●ストラップが首に巻き付く
などの事故の恐れがあります。
ご自分で判断のできない方、幼児・児童の近くでご使用になる場合は、綿密に管理してください。また、製品および付属品は幼児・児童の手の届かないところに保管してください。

注意

幼児が飲み込む恐れがあります。
幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

電池についてのご注意

幼児が飲み込む恐れがあります。
電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

防滴についてのご注意

このカメラは、小雨や雪の中で撮影しても安心なJIS保護等級2(防滴II型)相当の防滴設計になっています。ただし水圧に耐える防水性能は備えていませんので、水中での使用や水洗いはできません。さらに、下記の点に注意してお使いください。

①屋外で撮影中に雨が強く降ってきたときは、すみやかに、雨に濡れないところにカメラを片付けてください。また雨中に放置しないでください。

②短時間でも、カメラを流水やシャワーに当てないでください。また、バケツやひしゃく等でカメラに水をかけないでください。

③カメラに水滴や汚れが付いた場合は、そのまま放置せずに、なるべく早く乾いた柔らかい布で、カメラ内部に水滴が入らないよう注意して、ふき取ってください。

特に、ジュースや海水など糖分や塩分を含んだものがかかったときは、そのまま放置すると故障の原因になりますので、すみやかにふき取ってください。

④カメラに砂や泥が大量にかかると、故障の原因になります。浜辺などではカメラを直接砂の上に置かないでください。

⑤カメラの内部は防滴設計になっていませんので、

(1) カメラのフィルム室ふたや電池室ふたを開ける前に、カメラに付いた水滴や汚れをよく拭き取ってください。

(2) フィルムや電池の出し入れは、水滴・砂・ホコリのかからない場所で、乾いた手で行なってください。

防滴についてのご注意

⑥フィルム室ふたや電池室ふたは、カチッと音がするまできっちりと閉じてください。
ふたを閉じる際に、フタ内側のパッキンやその周囲に水滴や砂が付いているときは、水漏れの恐れがありますので、柔らかい乾いた布で取り除いてください。

⑦フィルム室ふたや電池室ふた内側のパッキンは常にきれいにしておいてください。
切れたり、伸びたり、キズができているときは、水漏れの恐れがありますので、当社サービスセンター・サービスステーションまでお持ちください。

⑧リモコン(RC-3)、付属のケースは防滴設計になっていませんので、ご注意ください。

その他の注意

使用温度について

●このカメラの使用温度範囲は-10～40℃です。

●直射日光下の車など、極度の高温下にカメラを放置しないでください。

●液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。

●湿度の高いところにカメラを放置しないでください。

●カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持

ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。

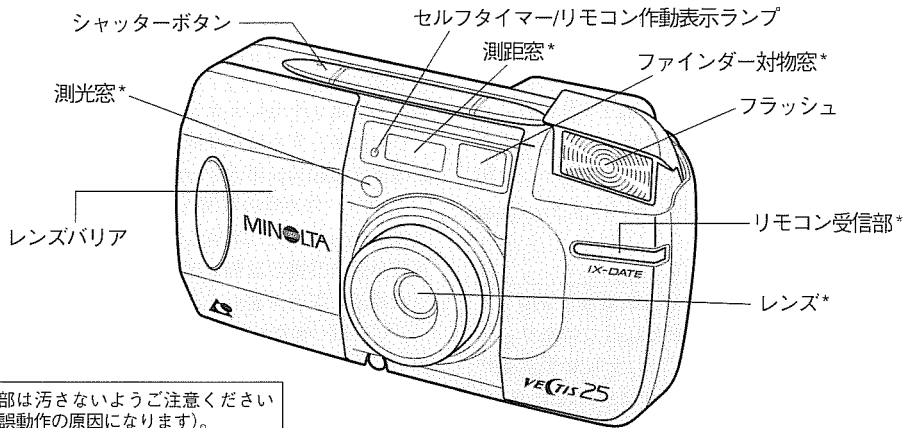
●電池の性能は、低温下では低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池を用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。

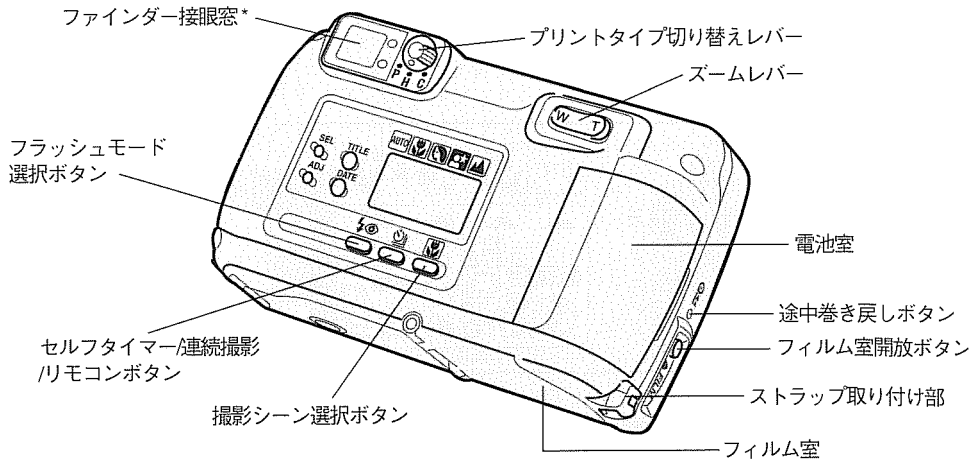
フィルムの取り扱いについて

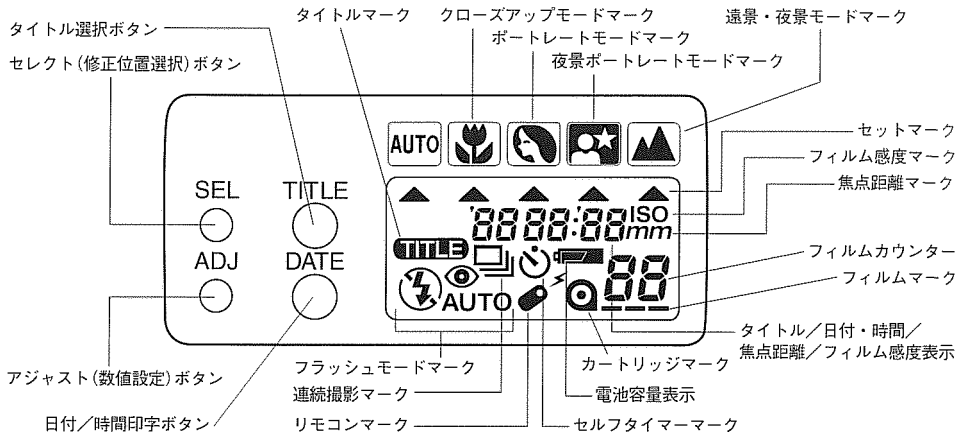
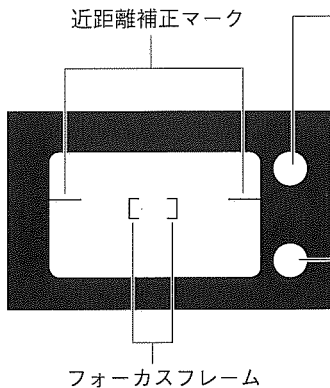
●新システムのフィルムでは磁気情報を使用していますので、フィルムを磁石に近づけたり、強い磁界の発生しているところ(テレビ受像機やスピーカーの上など)に置かないでください。磁気情報が失われて、新システムの性能を十分に発揮できなくなることがあります。

その他の注意

●電池容量が十分にあるのにカメラが動かなくなったとき、または液晶表示部の表示がすべて点滅したときは、電池を一度取り出し、再度入れてから、カメラの電源を入れ直してください。それでも正常動作に戻らない場合、また何度も繰り返して同じ状態になるときは、お近くの当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。

各部の名称（カメラボディ）

*部は汚さないようご注意ください（誤動作の原因になります）。

ファインダー接眼窓*
プリントタイプ切り替えレバー
P
H
C
ズームレバー
W
T
フラッシュモード
選択ボタン
SEL
TITLE
ADJ
DATE
AUTO
電池室
途中巻き戻しボタン
フィルム室開放ボタン
セルフタイマー/連続撮影
/リモコンボタン
ストラップ取り付け部
撮影シーン選択ボタン
フィルム室

各部の名称

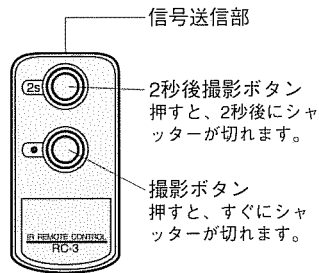
【背面操作部(液晶表示部)】

【ファインダー表示部（プリントタイプH）】

フォーカス表示
（緑ランプ）
点灯：ピントが合っています。
すばやく点滅：被写体が近すぎます。
ゆっくり点滅：被写体にピントが合いません。

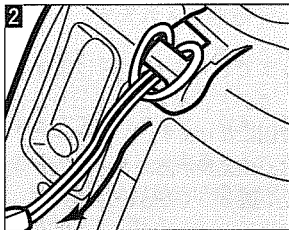
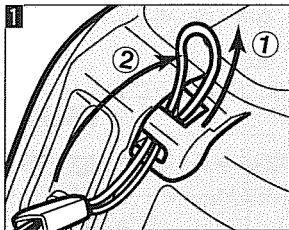
フラッシュ表示
（オレンジランプ）
点灯：フラッシュが発光します。
すばやく点滅：フラッシュが充電中です。
ゆっくり点滅：シャッター速度が遅くなっています。

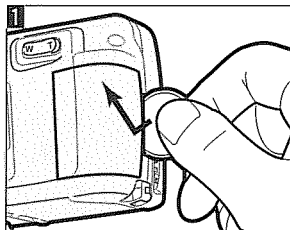
【リモコン（RC-3）】

信号送信部

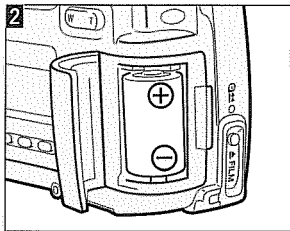
2秒後撮影ボタン
押すと、2秒後にシャッターが切れます。

撮影ボタン
押すと、すぐにシャッターが切れます。

準備編～撮影の前に

ストラップを取り付けます

ストラップの小さい方の輪をストラップ取り付け部に通します。次に大きい方の輪の端を、小さい方の輪の中に通して引っ張ります。

電池を入れます（お買い上げの際には、電池はすでに入っています）

カメラの汚れ・水分をふき取ってから、水滴・砂・ホコリのかからない場所で、乾いた手で、操作してください。

1 電池室ふたの溝に硬貨を差し込み、図のようにひねって開けます。

●電池室ふた内側のパッキンやその周囲に水滴や砂などがついているときは、乾いた布で取り除いてください。

2 電池室内の＋／－表示にしたがって電池を入れます。

3 電池室ふたを、カチッと音がするまできっちりと閉じます。

●電池室ふたがきっちりと閉まっていないと、水・砂・ホコリなどがカメラの内部に入って、故障の原因になります。

●電池を交換した後や入れ直した後は、液晶表示部に“-- -- --”が点滅します。正しい日付・時間を設定し直してください(P.58)。

電池容量の確認

レンズバリアをスライドさせて開けると、カメラの電源が入ります。そのときに自動的に電池容量がチェックされ、背面表示部にその結果を表示します。

表示	状態	内容
(電池マーク)	点灯	電池容量は十分です。
(電池マーク)	点滅	新しい電池をご用意ください(撮影はできます)。
(電池マーク)	点滅	(他の表示すべて消灯) 新しい電池に交換してください(この状態ではシャッターは切れません)。

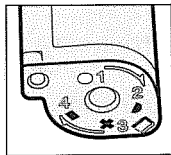
●電源を入れても何も表示されないときは、まず電池の向きが正しいかどうかを確認してください。それでも何も表示されないときは、電池を交換してください(3Vリチウム電池CR-2を1個使用します)。

●(電池マーク)の点滅は、電源を入れたとき以外でも表示されます。

●このカメラは、電源を入れてから約3分以上(リモコンモードの時は約8分以上)何も操作しないときは、節電のため自動的に電源が切れます。再び電源を入れたいときは、レンズバリアをいったん閉じて、再度開けてください。

基本撮影編１～撮影してみましょう

フィルムを入れます

このカメラでは、新システム(アドバンストフォトシステム)対応の、IX240カートリッジフィルムを使用します。

使用状態マークについて

IX240カートリッジは、フィルムの使用状態(露光状態)を4つのマークでお知らせします。4つのマークのうちの違う色になっているマークが、そのフィルムの状態です。それぞれのマークの意味は次のとおりです。

● :新品のフィルムです。　◗ :途中まで撮影済みのフィルムです。

✖ :全コマ撮影済みのフィルムです。　■ :現像済みのフィルムです。

ただし、◗ のマークは、カートリッジ途中交換機能を備えたカメラで、途中まで撮影したフィルムにのみ現われます(このマークのフィルムは、このカメラでは使用できません)。

このカメラには、使用状態マークが ● のフィルムをお使いください。

フィルムを入れます

このカメラには、ISO25～3200の感度のフィルムを

カメラの汚れ・水分をふき取ってから、水・砂・ホコリのかからない場所で、乾いた手で、操作してください。

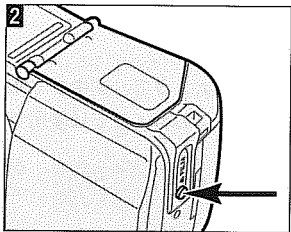
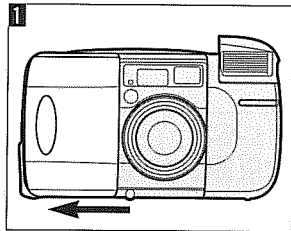
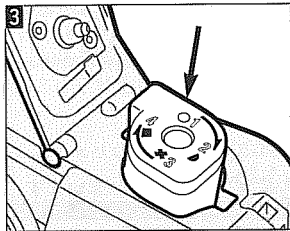
1 レンズバリアを、カチッと手応えがするまで開きます。

●カメラの電源が入ります。内蔵フラッシュが上がり、レンズが少し前に出ます。

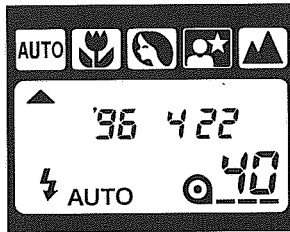
●カメラの電源がOFFでもフィルムを入れることができます。

2 フィルム室のふたを上にして、フィルム室開放ボタンを押します。

●フィルム室のフタが少し開きます。

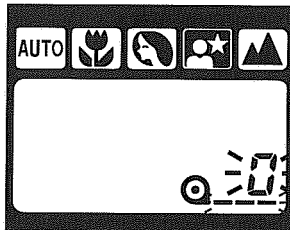
●フィルム室ふた内側のパッキンやその周辺に水滴や砂などがついているときは、乾いた布で取り除いてください。

3 フィルム室ふたを広く開け、フィルム室の形状に合わせて、フィルムを図のように入れます。

4 フィルム室ふたを、カチッと音がするまできっちりと閉じます。

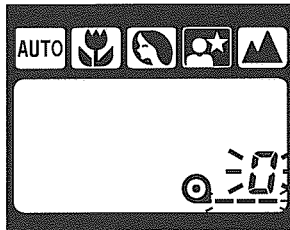
●フィルム室ふたがきっちりと閉まっていないと、水滴・砂・ホコリなどがカメラの内部に入って、故障の原因になります。

フィルム室ふたを閉じると、まずカートリッジのデータが読み取られて、液晶表示部にフィルム感度とカートリッジマークが現われます。続いて、フィルムが1コマ目まで自動的に巻き上げられます。正しく巻き上げられると、左図の表示が現われます(40枚撮りフィルムの場合)。

●電源OFFでフィルムを入れたときは、正しく巻き上げられた後、液晶表示部の表示が消えます。

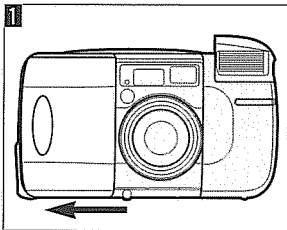
●このカメラのフィルムカウンターは、常にフィルムの残り枚数を表示します(逆算式カウンター)。

フィルムを入れます

●使用状態マークが ◗ 、✖、■ のフィルムをこのカメラに入れると、左図の表示が現われ、このカメラには使用できないフィルムであることをお知らせします。この場合フィルムは巻き上げられません(誤装填防止機能)。

※使用状態マークが ◗ または ■ のフィルムを、一度このカメラに入れてから取り出すと、使用状態マークは ✖ に変わってしまいます。

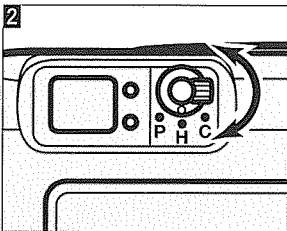
●感度がISO25〜3200の範囲外のフィルムや、何か異常のあるフィルムを入れたときも、左図の表示が現われます。この場合もフィルムは巻き上げられません。

※使用状態マークが ● のフィルム（新品のフィルム）を入れたとき、1コマ目までの巻き上げが正しく行なわれなかった場合は、液晶表示部に左図の表示が現われます。
この場合は、フィルム室開放ボタンを押してフィルムをいったん取り出し、再度入れ直してください。

それでも同じ表示が出る場合は、カメラの電源を切って、当社サービスセンターまたはサービスステーションにご連絡ください。

全自動で撮ってみましょう

1 レンズバリアを、カチッと手応えがするまで開きます。

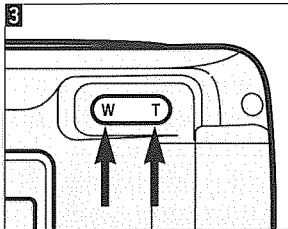
2 プリントタイプ(C/H/P)を選びます。

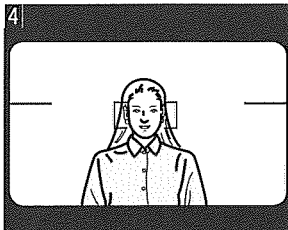
●選んだプリントタイプに応じて、ファインダーが切り替わります。

●各プリントタイプの標準的な仕上がりサイズは、Cタイプ：89㎜×127㎜、Hタイプ：89㎜×158㎜、Pタイプ：89㎜×254㎜です。

カメラを構えるときは

●写真がぶれないように、脇を閉め、両手でしっかりと構えてください。

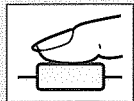
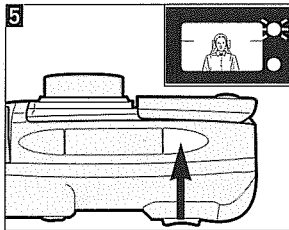
●レンズやフラッシュ、測距窓などカメラの前面に、指や髪の毛、ストラップがかからないようにしてください。

●縦位置で撮影するときは、フラッシュを上にして構えてください。

3 ファインダーをのぞきながら、ズームレバーで、撮る範囲や、撮りたいものの大きさを決めます。

●W(WIDE)のレバーを押すとより広い範囲のものが写り、T(TELE)のレバーを押すと、より大きく写ります。

4 ピントを合わせたいものに[　　]を重ねて、シャッターボタンを半押し*します。

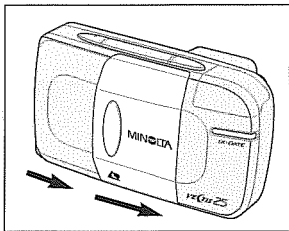
●暗いときには、ピントを合わせるためにフラッシュが発光して、被写体を照らします。

*シャッターボタンの半押し

シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書では、そこまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

5 ファインダー横の緑ランプが点灯したら、そのままシャッターボタンを押し込みます。

●フラッシュ表示(オレンジランプ)がすばやく点滅しているときはフラッシュが充電中です。オレンジランプが点滅から点灯に変わるまで待ってから撮影してください。

●緑ランプがゆっくり点滅するときは、シャッターは切れますが、ピントの合わない写真になることがあります(33ページ参照)。

●暗いときや逆光のときには、フラッシュが自動的に発光します。

カメラの電源を切るときは、レンズバリアを閉じます。

●まずレンズバリアを少し閉じます。レンズ部分が完全にボディ内に収納されてから、バリアを全部閉めてください。

※バリアを閉じるときは、無理に操作しないでください。

近くのものを撮るときは

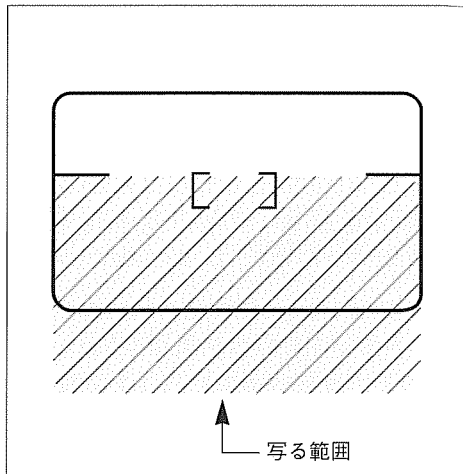
撮りたいものに近づける距離は、プリントタイプとレンズの焦点距離の組み合わせによって異なり、下の表のようになります。

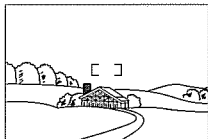
プリントタイプ	C または H	P	
レンズの焦点距離	(ズーム全域)	30mm〜55mmのとき	55mm〜75mmのとき
ピントの合う距離	0.5mより遠くのもの	0.5mより遠くのもの	0.7mより遠くのもの

上の表の距離より撮りたいものに近づき過ぎると、緑ランプがすばやく点滅してお知らせします(シャッターは切れません)ので、上の表の距離より離れて撮影してください。

注意：撮りたいものに極端に近づき過ぎると、緑ランプがゆっくりと点滅してシャッターが切れることがありますが、ピントは合いません。

近くのものを撮るときは

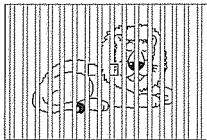
1.0m未満(プリントタイプがCまたはHのとき)、または、1.5m未満(プリントタイプがPのとき)の距離にあるものを撮るときは、近距離補正マークの内側(Hタイプの場合、右図の斜線の範囲)が写ります。ピントを合わせたいものをフォーカスフレームにいれてシャッターボタンを半押しした後、カメラを少し上にずらし、撮りたいものが斜線の範囲内におさまるように構図を変えて撮影してください(35ページ「撮りたいものが画面中央にないときは」参照)。
撮影シーンセレクターのクローズアップモードのときは48ページをご覧ください。

AF(オートフォーカス)の苦手な被写体（その1）

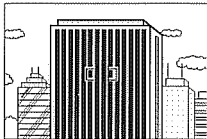
このカメラでは、被写体のコントラスト(明暗差)を利用してピント合わせをしているため、以下のようなものにはピントが合わないことがあります。このような場合は、撮りたいものと同じ距離にある別のもの(コントラストのあるもの)にピントを一時的に固定してください(操作方法は35ページ「撮りたいものが画面中央にないときは」の項目をご覧ください)。

青空など、コントラストのないものや、太陽のように明るい光源や車のボディ・水面など反射しているもの

→緑ランプがゆっくりと点滅して、AF(オートフォーカス)が働かないことをお知らせします。その場合、以下の距離にピントが固定されています。
- ●フラッシュが発光する場合—1.4〜2.5m(焦点距離による)
- ●フラッシュが発光しない場合—無限遠(非常に遠く)

明るい光源のすぐ近くにあるもの

→緑ランプが点灯しますが、ピントが合わないことがあります。

AF(オートフォーカス)の苦手な被写体（その2）

遠くと近くに共存するもの

→緑ランプが点灯しますが、遠いほうか近いほうのどちらかにピントの合った写真になります。

繰り返しパターンの連続するもの

→緑ランプがすばやく点滅し、シャッターは切れません。

撮りたいものが画面中央にないときは

撮りたいもの(ピントを合わせたいもの)が画面の中央にないとき、そのまま撮影すると、左の作例写真のように背景にピントの合った写真になってしまいます。
こんなときは、撮りたいものに一時的にピントを固定して撮影します。この方法は、オートフォーカスの苦手な被写体を撮りたいときにも使えます。

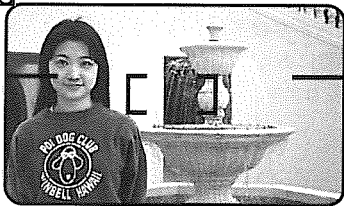
1 ピントを合わせたいものに［　］を重ねます。

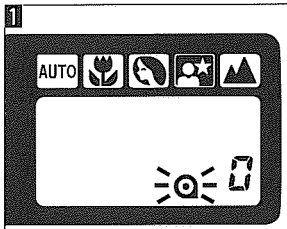
●オートフォーカスの苦手な被写体を撮りたいときは、撮りたいものと同じ距離にある別のもの(コントラストのあるもの)に［　］を重ねます。

(次ページに続く)

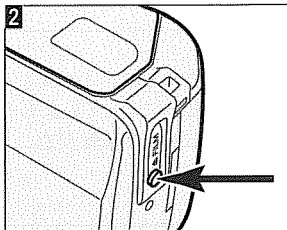
2

3

2 そのままの状態でシャッターボタンを半押しします。
●緑ランプが点灯し、[　　] を重ねたものにピントが固定されます。

3 シャッターボタンを半押ししたまま撮りたい構図に変え、シャッターボタンをそのまま押し込みます。

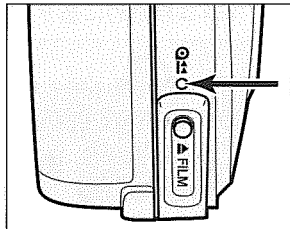
フィルムを取り出します

1 最後のコマまで撮り終えると、フィルムは自動的に巻き戻されます。

●巻き戻し中は、フィルムカウンターの数字が、40→39→38→……と順々に減っていきます（40枚撮りフィルムの場合）。

●液晶表示部のフィルムカウンターが“0”になり、◎マークが点滅したら、巻き戻しは終了です。

2 フィルム室のふたを上にして、フィルム室開放ボタンを押します。

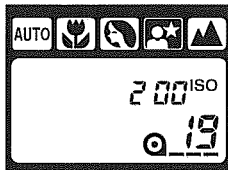
●フィルム室のふたが少し開きます。

3 フィルム室ふたを広く開けて、フィルムを取り出します。

フィルムを取り出します

フィルムを途中で巻き戻すには

ボールペンなど先の細いもので、途中巻き戻しボタンを軽く押します。

●ボタンを強く押し込まないでください。

●液晶表示部のフィルムカウンターが 0 になり、◎マークが点滅したら、巻き戻しは終了です。あとの操作は前ページ2、3と同じです。

このカメラは、フィルムが入っていて巻き上げられているときは、フィルム室開放ボタンを押してもフィルム室のふたが開かない仕組みになっています(セーフティロック)。フィルム室開放ボタンを押している間、液晶表示部にフィルム感度とフィルムカウンター(残り枚数)が表示されます。

現像・プリントに出すときは

「現像プリントサービス認定店」認定マーク

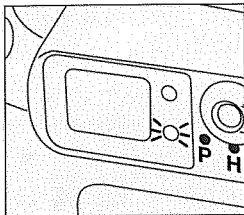
高品質なプリントを得るために、このカメラで撮影したフィルムを現像・プリントに出すときは、左図の「現像プリントサービス認定店」の認定マークを掲示してあるお店にお出しください。
現像プリントサービス認定店でのサービスについては、78ページをご覧ください。

焼き増しを注文するときにプリントタイプを変更できます

このカメラでは、どのプリントタイプで撮影しても、フィルム上には常にHタイプで像が記録されています。したがって、お店で焼き増しを注文する際に、撮影したときと違うプリントタイプを指定することもできます。
たとえば、Cタイプで撮影したものでも、HタイプやPタイプでプリントすることができます。

基本撮影編 2 ～フラッシュ撮影

レンズバリアを開けて電源を入れたとき、フラッシュは「自動発光モード」になり、暗いときや逆光のときに自動で発光します。

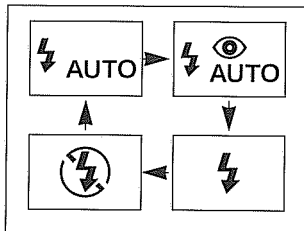
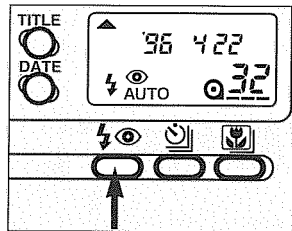
フラッシュ表示（オレンジランプ）／フラッシュ光の届く距離

フラッシュが発光する場合は、シャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー横のフラッシュ表示（オレンジランプ）が点灯します。

●オレンジランプがすばやく点滅しているときは、フラッシュが充電中です。オレンジランプが点滅から点灯に変われば、撮影できます（フラッシュ充電時間は約5秒です）。

フラッシュ光の届く距離には限度があります。下の表を目安に、この範囲内で撮影してください。

焦点距離	フラッシュ光の届く距離範囲（ISO200のとき）
30㎜	0.5m～7.6m
75㎜	0.5m～3.2m

●撮影シーンセレクターのクローズアップモード時（P.48）は、0.4mからフラッシュ撮影できます。

フラッシュモードの選択

このカメラは自動発光モード ϟAUTO の他に、赤目軽減自動発光 ϟ◎AUTO／強制発光 ϟ／発光禁止 ⓧ の3つのフラッシュモードが選べます。

●フラッシュモード選択ボタンを押すごとに、下図の順序でフラッシュモードが切り替わります。

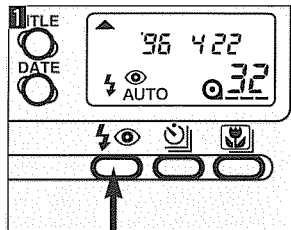
●レンズバリアを閉じて電源を切ると（または自動的に電源が切れると）、次に電源を入れたときは、自動発光モードまたは赤目軽減自動発光モード（前回撮影した方のモード）にもどります。

各フラッシュモードの使い方は、以下の項目をご覧ください。

赤目軽減自動発光→フラッシュで目が赤く写らないようにするには

強制発光→顔に影ができているときや蛍光灯のついた室内で撮影するとき

発光禁止→美術館・博物館などフラッシュの使用が禁止されている場所で撮影するとき

フラッシュで目が赤く写らないようにするには

シャッターが切れる前に、小光量のフラッシュが数回発光して、暗いところで目が赤く写るのを目立たなくします。

1 フラッシュモード選択ボタンを押して、⚡👁AUTO マークを点灯させます。

2 シャッターボタンを押して撮影します。

シャッターボタンを押してからシャッターが切れるまでの間(約1.5秒間)、カメラを動かしたり被写体が動かないよう注意してください。

赤目軽減自動発光モードは、カメラの電源を切ってもそのまま保持されています。赤目軽減自動発光モードを取り消したいときは、フラッシュモード選択ボタンを押して ⚡👁AUTO 以外のマークを表示させてください。

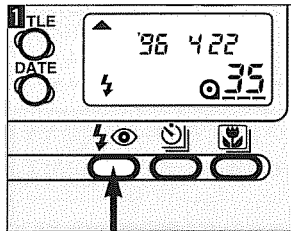
顔に影ができているときや蛍光灯のついた室内で撮影するとき

次のような場合は、強制発光モードにして、フラッシュを発光させて撮影しましょう。

明るい屋外で、人物の顔に帽子の影ができるとき

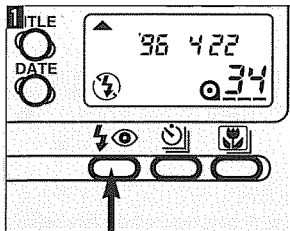
→顔にできる影をやわらげます。

蛍光灯のついた明るい室内で撮影するとき

→蛍光灯の影響で画面全体が緑色がかって写るのを防ぎます。

1 フラッシュモード選択ボタンを押して、ϟ マークを点灯させます。

2 シャッターボタンを押して撮影します。

美術館・博物館などフラッシュの使用が禁止されている場所で撮影するとき

美術館や博物館などで、フラッシュの使用が禁止されている場所では、この方法で撮影します。

1 フラッシュモード選択ボタンを押して、(フラッシュ禁止)マークを点灯させます。

2 シャッターボタンを押して撮影します。

暗いところではシャッター速度が遅くなり(最長8秒)、写真がぶれやすくなります。こんなときは、ファインダー横のオレンジランプがゆっくり点滅してお知らせしますので、三脚などでカメラをしっかり固定してください。

●夕方の風景や街の夜景などを撮るときは、撮影シーンセレクターの「遠景・夜景モード」を使って撮影してください(54ページ参照)。

撮影シーンセレクター編

撮影シーン選択ボタンを押して撮りたいシーンの絵記号を選ぶだけで、そのシーンに適した状態にカメラが自動的に設定されます。面倒な設定が不要で、撮りたいシーンを手軽に撮影できます。

撮影シーンセレクター

このカメラには、次の4通りのシーンに対するモードが用意されています。

①近づいて大きく撮りたい

→クローズアップモード（P.48）

●写したいものに40cmまで近づいて大きく撮ることができます。

②ポートレートらしい人物写真を撮りたい

→ポートレートモード（P.50）

●ポートレートにふさわしい大きさ（カメラを横に構えたとき、ウエストから上半身が写るくらいの大きさ）に撮ることができます。

③夜景を背景にした人物写真を撮りたい

→夜景ポートレートモード（P.52）

●遅いシャッター速度でフラッシュ撮影します。人物も後の夜景も両方写すことができます。

④遠くの風景や夜景をきれいに撮りたい

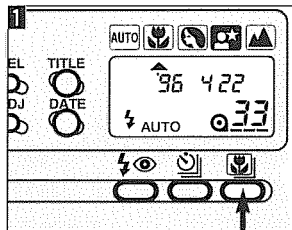
→遠景・夜景モード（P.54）

●ピントが無限遠になり、遠くのものがシャープに写ります。

●レンズバリアを閉じて電源を切ると（または自動的に電源が切れると）通常撮影（AUTO）に戻ります。

●撮影後は、通常撮影（AUTO）に戻ります。

近づいて大きく撮ることができます～クローズアップモード

40cm（プリントタイプがPのときは70cm）まで近づいて大きく撮ることができます（ハガキくらいの大きさのものを、Hタイプのほぼ画面いっぱいに撮ることができます）。

1 撮影シーン選択ボタンを押して、🌷マークの下に▲を点滅させます。

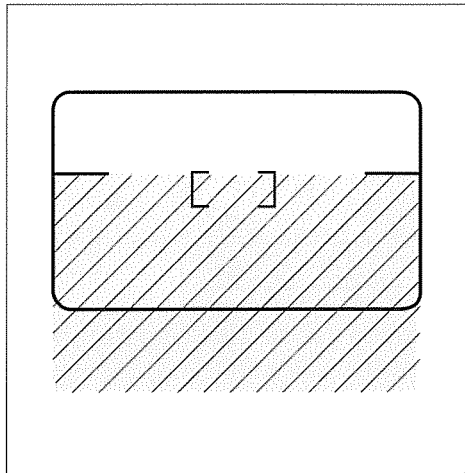
●約2秒後に▲が点滅から点灯に変わり、同時にレンズが75mmの位置に固定されます。▲が点滅しているときシャッターボタンを半押しすると、すぐにレンズが75mmの位置に固定されます。

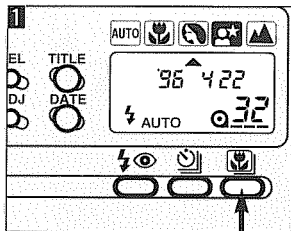
●クローズアップモード以外のモードに変更するまで、ズームレバーを押してもレンズは動きません。

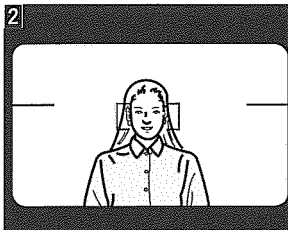
●フラッシュモードはいったん自動発光モード（または赤目軽減自動発光モード）になりますが、フラッシュモード選択ボタンを押せば、他のモードに変えることができます。

2 シャッターボタンを押して撮影します。

クローズアップモードで1.0m未満(プリントタイプがCまたはHのとき)、または、1.5m未満(プリントタイプがPのとき)の距離にあるものを撮るときは、近距離補正マークの内側(Hタイプの場合、図の斜線の範囲)が写ります。ピントを合わせたいものをフォーカスフレームにいれてシャッターボタンを半押しした後、カメラを少し上にずらし、撮りたいものが斜線の範囲内におさまるように構図を変えて撮影してください(35ページ「撮りたいものが画面中央にないときは」参照)。

●緑ランプがゆっくり点滅するときは、40㎝にピントが固定されています。

人物を適切な大きさで撮ることができます～ポートレートモード

シャッターボタンを半押しすると、ポートレートにふさわしい大きさ（カメラ横位置で、ウエストから上半身が写る）で撮れるように自動でズームします。

1 撮影シーン選択ボタンを押して、 マークの下に▲を点灯させます。

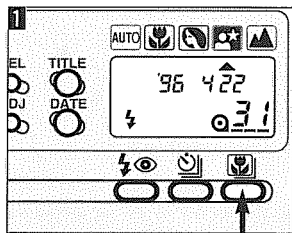
●フラッシュモードはいったん自動発光モード（または赤目軽減自動発光モード）になりますが、フラッシュモード選択ボタンを押せば、他のフラッシュモードに変えることができます。

2 撮りたい人物に［　　］を重ねて、シャッターボタンを半押しします。

- 人物が適切な大きさに写るように自動でズームします。
- 緑ランプがゆっくり点滅するときは、自動でズームしません。このときは、1.4m～2.5m（シャッターボタンを半押しする前のレンズの焦点距離によって異なります）にピントが固定されています。

3 そのままシャッターボタンを押し込んで撮影します。

自動でズームした後でも、ズームレバーを押せば、撮りたい人物の大きさを変えることができます。ただし、いったんズームレバーを押すと、その後はシャッターボタンを半押ししても自動でズームしません。

夜景を背景にした人物を撮ることができます〜夜景ポートレートモード

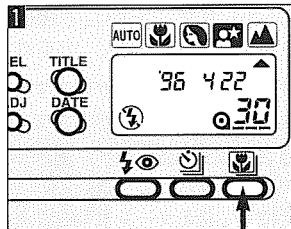
夜景ポートレートモードで撮影すると、シャッター速度が遅くなり、フラッシュも発光しますので、人物も背景の夜景も両方写せます。

1 撮影シーン選択ボタンを押して、夜景ポートレートマークの下に▲を点灯させます。

●フラッシュモードは強制発光モード(必ず発光する)になります。夜景ポートレートモード以外のモードに変更するまで、他のフラッシュモードに変更できません。

2 構図を決め、そのままシャッターボタンを押して撮影します。

- ●ピント合わせのために、本発光の前にフラッシュが発光することがあります(29ページ参照)。
- ●人物の背景に明るい光源(ネオンなど)があるときは、人物の胸などにピントを一時的に固定して撮影してください。
- ●人物のいない夜景を撮影するときは、撮影シーンセレクターの「遠景・夜景モード」で撮影してください(54ページ参照)。

シャッター速度が遅くなりますので(最長1秒)、カメラを三脚などに固定してください。また、写される人にも声をかけて、動かないように気を付けてもらうことをおすすめします。

風景写真や夜景をきれいに撮ることができます～遠景･夜景モード

ピントが無限遠になり、遠くの夜景や窓越しの風景などがシャープに写ります。

1 撮影シーン選択ボタンを押して、▲▲マークの下に▲を点灯させます。

●フラッシュモードは発光禁止モード(フラッシュ発光しない)になります。遠景･夜景モード以外のモードに変更するまで、他のフラッシュモードに変更できません。

2 構図を決め、そのままシャッターボタンを押して撮影します。

暗いところではシャッター速度が遅くなり(最長8秒)、写真がぶれやすくなります。こんなときは、ファインダー横のオレンジランプがゆっくり点滅してお知らせしますので、三脚などでカメラをしっかり固定してください(ぶれを防ぐため、リモコンでの撮影をおすすめします。73ページ参照)。

こんなこともできます編

新システムの情報入出力(IX)機能を使うことで、タイトル印字などこれまでのカメラにはなかった機能を使うことができます。
またセルフタイマー撮影や連続撮影、リモコン撮影もできます。

日付、時間を入れましょう

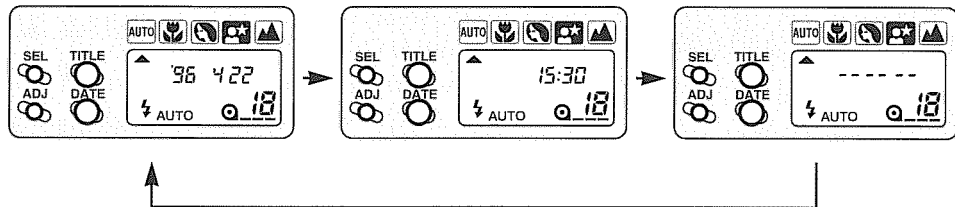
これまでの日付・時間の写し込みは、フィルムに直接像を写し込む方法でした。
このカメラでは、日付・時間の情報を磁気でフィルムに記録します。この磁気情報を使って、プリントの際に表裏両面に日付・時間が印字されます。
液晶表示部の表示によって、印字される内容が、以下の表のとおり変わります。

液晶表示部の表示	'96 4 22	15:30	---- --
表面に印字される内容	*96.4.22*（年月日）	*15:30*（時：分）	何も印字されません
裏面に印字される内容	*96.4.22*（年月日）	*15:30*（時：分）	*96.4.22 15:30* （年月日 時：分）

●現像・プリント取扱店によっては、表面の印字に対応していないところもあります。詳しくはお店の方にお問い合わせください。

表示(印字される内容)の切り替え

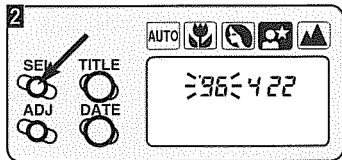
撮影の前に、日付/時間印字ボタンを押して、印字される内容を選びます。

日付/時間印字ボタン(DATE)を押すごとに、液晶表示部の表示が下図のように切り替わります。

日付、時間を入れましょう

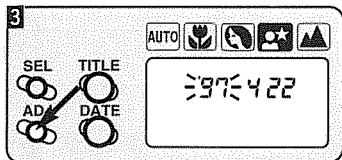
日付・時間の修正

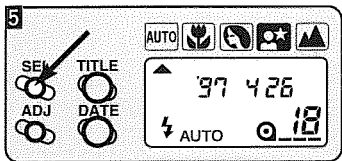
このカメラには2029年までの日付が記憶されていますので、撮影のたびに数値を設定する必要はありません。電池を交換した後や電池を入れ直した後など、数値の修正が必要な場合は、以下の手順で行なってください。

1. 液晶表示部を、年月日／時：分／日付印字なし(-- -- --)のいずれかの表示にします。

●電池を交換した後や電池を入れ直した後は、“-- -- --”が点滅しています(この状態で撮影しても、表面にも裏面にも何も印字されません)。

2. セレクト(修正位置選択)ボタンを押します。

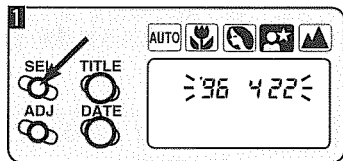
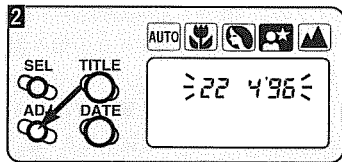
●"年"の数字が点滅します。

●セレクト(修正位置選択)ボタンを押すごとに、年→月→日→時→分の順で、点滅箇所が変わります。

3 アジャスト(数値設定)ボタンを押して、数値を訂正します。押し続けると、点滅箇所の数値が早送りされます。

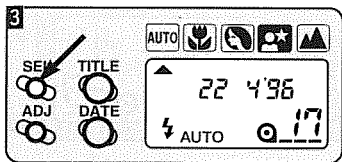
4 他にも修正箇所があるときは、2、3の操作を繰り返します。

5 修正が終わったら、点滅している数字がなくなるまでセレクト(修正位置選択)ボタンを押します。

日付、時間を入れましょう

年月日の並び変え

液晶表示部の“年月日”の並び順を変えることができます。液晶表示部の並び順を変えると、プリントの表面・裏面に印字される内容の順序も、同じ順序に変わります。

1 日付表示全部が点滅するまで、セレクト(修正位置選択)ボタンを押し続けます。

2 アジャスト（数値設定）ボタンを押して、年月日の並び順を選びます。

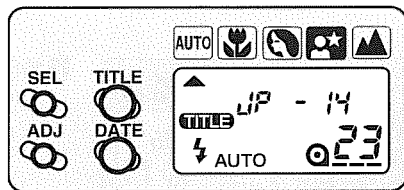
●ボタンを押すごとに、年月日の並び順が図のように変わります。

'96 4 22 → 4 22'96 → 22 4'96

3 希望の並び順を選んだら、セレクト（修正位置選択）ボタンを押します。

タイトルを入れましょう

"タンジョウビ"、"アイラブユー"などのタイトルをプリントの裏に印字することができます。
このカメラでは、タイトルの情報を磁気でフィルムに記録します。この磁気情報を使って、プリントの際に、裏面にタイトルが印字されます。

タイトルには、各コマごとに設定できる「コマタイトル」と、フィルム1本分を通して同じタイトルが入る「全コマ共通タイトル」の2通りがあります。この2通りのタイトルは、1枚のプリントに一緒に印字することができます。

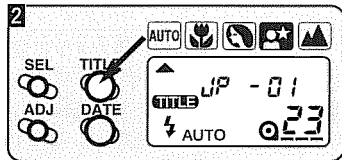
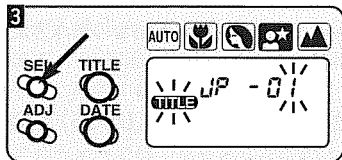
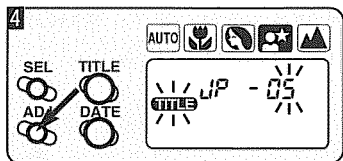
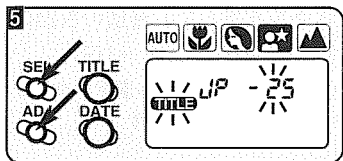
このカメラでは、タイトルを図のように、言語の種類を表す略語(図の場合、日本語カナ文字を表す "JP")と、2ケタの数字(タイトル選択番号。図の場合は、アイラブユーの番号 "14") との組み合わせで表示します。
どんな種類のタイトルがあるのか知りたいときは、付属の「タイトルリスト」をご覧ください。

タイトルの登録と変更

タイトル印字を行うには、タイトルリストの中から印字したいタイトルを選んで、あらかじめカメラに登録しておく必要があります。このカメラには、3個のタイトルを登録しておくことができます。
お客様がこのカメラを購入されたときは、*JP-01*（タンジョウビ）、*JP-14*（アイラブユー）、*JP-66*（コンナニオオキクナリマシタ）の3個が登録されています。

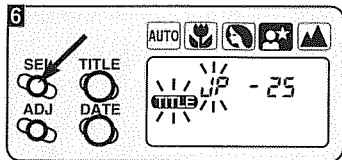
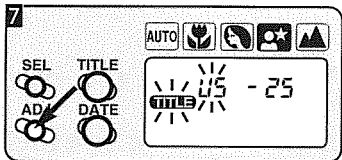
登録されているタイトルを変更するには、次のようにします。

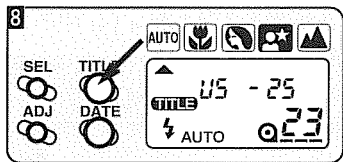
●3個のタイトルすべてを変更する必要はありません。
●ここでは、例として、*JP-01*（タンジョウビ）を、*US-25*（Happy New Year）に変更する場合の操作方法について説明します。

1「タイトルリスト」から、新たに登録したいタイトルの略語と数字（この場合、*US-25*）を選びます。

（次ページに続く）

2 タイトル選択ボタンを押して、変更したいタイトルの略語と数字（この場合、*JP-01*）を表示させます。

3 セレクト（修正位置選択）ボタンを押します。
タイトル選択番号の一の位の数字（この例では、*1*）が点滅します。

4 アジャスト(数値設定)ボタンを押して、一の位の数字を変更します(この例では、*1*→*5*)。押し続けると連続して変わります。

5 3、4の操作を繰り返して、タイトル選択番号の十の位の数字を変更します(この例では、*0*→*2*)。

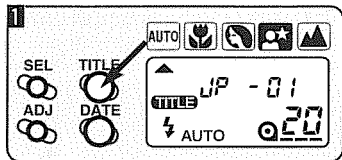
- 一桁のタイトル選択番号のタイトルを選ぶときは、十の位を"*0*"にします。
- 一桁目しか変更しない場合は、セレクト(修正位置選択)ボタンを押して、次の操作に進んでください。

(次ページに続く)

6 セレクト（修正位置選択）ボタンを押します。言語の種類を表す略語が点滅します（例の場合、*JP*）。

7 アジャスト（数値設定）ボタンを押して、希望の言語の略語を点滅表示させます（この例では、*JP*→*US*）。

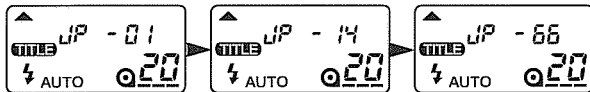
●言語（の略語）を変更しない場合は、タイトル選択ボタンを押してください。タイトルの登録が完了します。

8 タイトル選択ボタン、またはセレクト(修正位置選択)ボタンを押します。

●登録されているタイトルの変更は、撮影の途中でもできます。

●タイトルには12種類の言語があります。日本語カナ文字(JP-)以外の言語のタイトルについては、設定どおり印字されるかどうか、あらかじめお店の方にお問い合わせください。

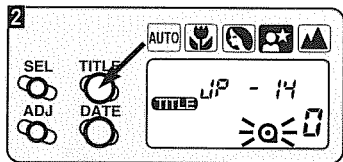
タイトルを入れましょう〜コマタイトル

1 撮影する前に、タイトル選択ボタンを押して、印字したいタイトルを選びます。

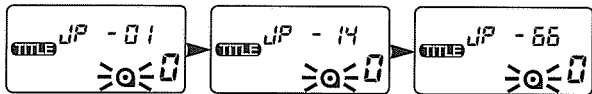
● TITLE と、タイトルの略語と数字が現れます。

●タイトル選択ボタンを押すごとに、登録されている3個のタイトルが順に現れます。

2 そのまま、シャッターボタンを押して撮影します。

●撮影後、コマタイトルの設定は解除されます。

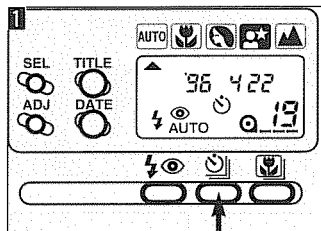
タイトルを入れましょう～全コマ共通タイトル

1 最後のコマまで撮影するか、または途中巻き戻しボタンを押して、フィルムを巻き戻します。

2 巻き戻しが完了したら、タイトル選択ボタンを押して、印字したいタイトルを選びます。

●タイトル選択ボタンを押すごとに、登録されている3個のタイトルが順に現れます。

3 シャッターボタンを押し込みます。

●フィルムが一部巻き上げられ、再度巻き戻されます。このときに全コマ共通タイトルの情報がフィルムに書き込まれます。書き込みが終わると、フィルム巻き上げ完了の表示に戻ります。

●全コマ共通タイトルは、1本のフィルムに1度だけ設定できます。いったん設定されると、再設定することはできません。

セルフタイマー撮影　撮影者も写真に入ることができますので、全員での記念写真などに便利です

1 カメラを三脚などに固定してから、セルフタイマー/連続撮影/リモコンボタンを押して、 マークを点灯させます。

2 撮りたいものに［　　］を重ねます。

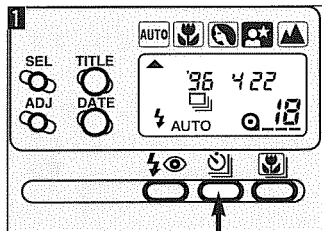
3 シャッターボタンを押します。

●液晶表示部の マークとカメラ前面のセルフタイマー/リモコン作動表示ランプが点滅し始め、約10秒後にシャッターが切れます。

●カメラの前面に立ってシャッターを押さないでください。
●撮影後は通常撮影に戻ります。

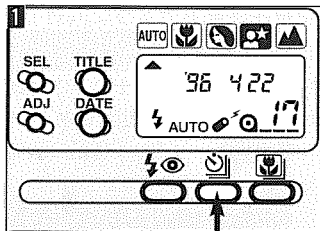
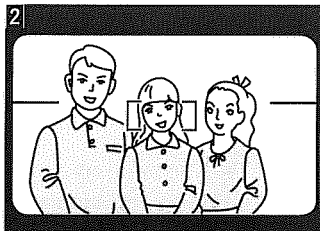
セルフタイマー撮影を中止したいときは、シャッターが切れる前にセルフタイマー/連続撮影/リモコンボタンを押すか、レンズバリアを閉じて電源を切ってください。

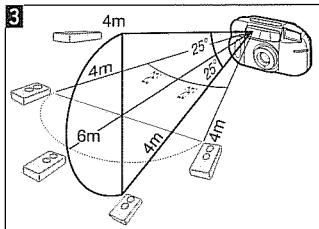
撮りたいものが画面中央にないときは、まず、撮りたいものに[　]を重ねてシャッターボタンを半押しし、そのまま撮りたい構図に変えて、シャッターボタンを押し込みます(P.35「撮りたいものが画面中央にないときは」参照)。

連続撮影　走っている子供など、動いているものをイキイキととらえることができます。

1 セルフタイマー/連続撮影/リモコンボタンを押して、□マークを点灯させます。

2 シャッターボタンを押している間、シャッターが切れ続けます(約1.5秒間隔)。

- フラッシュ撮影の場合は、フラッシュの充電が完了してからシャッターが切れます。
- レンズバリアを閉じて電源を切ると(または自動的に電源が切れると)通常撮影に戻ります。

リモコン撮影 付属のリモコンを使うと、カメラから離れたところからシャッターを切ることができます。

1 カメラを三脚などに固定してから、セルフタイマー/連続撮影/リモコンボタンを押して、マークを点灯させます。

2 撮りたいものがファインダー内の[　　]に重なるように、構図を決めます。

(次ページに続く)

3 図の範囲内で、リモコンの信号送信部をカメラに向けて、2sボタンか●ボタンを押します。

●2sボタンを押すと、カメラのセルフタイマー/リモコン作動表示ランプが点滅し始め、約2秒後にシャッターが切れます。●ボタンを押した場合は、セルフタイマー/リモコン作動表示ランプが1回点灯して、すぐにシャッターが切れます。

●レンズバリアを閉じて電源を切ると、通常撮影に戻ります。

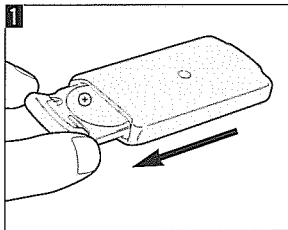
●約8分以上カメラやリモコンを操作しないと、節電のため自動的に電源が切れます（このときも通常撮影に戻ります）。

●逆光時や蛍光灯の近くでは、リモコン撮影できないことがあります。

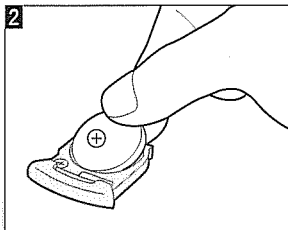
撮りたいものが画面中央にないときは
(オートフォーカスの苦手な被写体を撮りたいときは)

リモコン撮影で撮りたいものが画面の中央(カメラの正面)にないときは、以下の手順で撮影してください。この方法は、オートフォーカスの苦手な被写体をリモコン撮影で撮りたいときにも使えます。

1. リモコン撮影モードにします(73ページ参照)。
2. 撮りたいもの(または、撮りたいものと同じ距離にある別のもの)に[　　]を重ねて、シャッターボタンを半押しします。
3. ファインダー横の緑ランプが点灯したら、シャッターボタンから指を離して撮りたい構図に戻し、リモコンで撮影します。

※撮影後も緑ランプは点灯しており、同じ距離のものなら続けて撮影できます。レンズカバーを閉じて電源を切るか、セルフタイマー/連続撮影/リモコンボタンを押すと、緑ランプは消灯します。

リモコン用電池の交換

リモコン用の電池には、リチウム電池(CR2032)1個を使用しています。リモコンのボタンを押してもシャッターが切れなくなったら、電池を交換してください(電池の寿命は約10年です)。

1 リモコンを裏向けて、電池室を矢印の方向へ引き出します。
2 古い電池を取り出し、新しい電池を十側を上にして入れます。
3 電池室を元どおり確実にはめ込みます。

注意

コイン型電池は、幼児の手の届かないところへ置いてください。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

付　　録

プリント時のサービスについて

「現像プリントサービス認定店」認定マーク

上の認定店マークを掲示しているお店に現像・プリントを依頼されますと、以下のサービスを受けることができます。

①プリントタイプ切り替え(C/H/P)に対応します。

撮影時にお客様の設定されたプリントタイプでプリントします。

②日付やタイトルを裏面に印字します。

日付や時間、お客様が設定されたタイトルなどを、各々のプリントの裏面に印字してお返しします。

③プリント画像を自動で補正します。

フィルムに自動的に記録される磁気情報をもとにして、最適な画像が得られるようプリント時に自動で補正します。

④フィルムをカートリッジ内に巻き取ってお返しします。

現像済みのフィルムは、カートリッジ内に巻き取られた状態でお客様にお返しします。

※現像済みフィルムのカートリッジの使用状態マークは ■ になります。

⑤インデックスプリントをお渡しします。

1本のフィルムに記録されているすべての写真を、まとめて1枚にプリントし、カートリッジと一緒にお返しします。

これらのの5つのサービスは、それぞれお客様のご要望に応じて変更することができます。詳しくは、お店の方にお問い合わせください。

焼き増しを注文するときにプリントタイプを変えることができます。

このカメラでは、どのプリントタイプで撮影しても、フィルム上には常にHタイプで像が記録されています。したがって、お店で焼き増しを注文する際に、撮影したときと違うプリントタイプを指定することができます。
たとえば、Cタイプで撮影したものでも、Hタイプや Pタイプでプリントすることができます。

取り扱い上の注意

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

●前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。

●万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

●本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。

●アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、そちらをご覧ください。

手入れのしかた

●カメラボディを清掃するときは、柔らかいきれいな布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。

●測距窓(P.14)が汚れているとオートフォーカスが正しく動作しないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で測距窓の汚れをふき取ってください。

●レンズ面を清掃するときは、レンズブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーをしみ込ませ、軽くふいてください。

●シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使わないでください。
●レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。
●防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。
●保管中も時々電源を入れて、空シャッターを切る(フィルムを入れないでシャッターを切る)ようにしてください。また、使用前には整備点検されることをおすすめします。

万一、不具合が生じたときは

●お問い合わせの際に、カメラの機種名と現象をお伝えください。
●修理を依頼される場合は、不具合が生じたときのフィルムカートリッジも一緒にお持ちください。

主な性能

カメラタイプ	IX240レンズシャッターカメラ
レンズ	ミノルタレンズ30-75㎜/F3.6-8.6（35㎜フィルム換算で 約38-94㎜）
最大撮影倍率	約1/4.3倍（クローズアップモード、焦点距離75㎜、撮影距離0.4mのとき）
露出制御範囲（ISO200）	30㎜時：EV3.0～17（F3.6、1.6秒～F16、1/500秒） 75㎜時：EV3.2～17（F8.6、8秒～F19、1/350秒）
ファインダー倍率	30㎜時：0.44倍 75㎜時：1.0倍
視野率（Hタイプ）	85％（3.0mの被写体に対して）
アイポイント	28㎜（接眼レンズ面より）
撮影可能本数	約 12本（25枚撮りフィルム、フラッシュ50％使用）
電源	カメラ本体：3VリチウムCR2×1個 リモコン用：リチウム電池CR2032×1個

防滴	JIS保護等級2（防滴II型）相当
大きさ	カメラ本体：117.5（幅）×65（高さ）×42（奥行）㎜
	リモコン：31.5（幅）×66（高さ）×6（厚さ）㎜
重さ	カメラ本体：235g（電池別）
	リモコン：12g（リモコン用電池含む）

●本書に記載の性能は当社試験条件によります。

●本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

CE	ボディ底面のこのマーク（CEマーク）は、本製品が電気安全・電波障害に関するEU（欧州連合）の要求事項に適合していることを示すものです。CEとはフランス語の Conformité Européenne（ヨーロッパ認定）の頭文字です。

ミノルタ株式会社
ミノルタカメラ販売株式会社

使い方に関する不明な点は、下記住所のフォトアドバイザーがお答えいたします。

サービスセンター

新　宿　〒160 東京都新宿区新宿3-17-5（カワセビル3階）
TEL　(03) 3356-6281(代)

大　阪　〒530 大阪市北区梅田1-11（大阪駅前第4ビル7階）
TEL　(06) 341-6501(代)

サービスステーション

札　幌　〒060 札幌市北区北7条西1-1-5（丸増ビルNo.18）
TEL　(011) 737-1212(代)

仙　台　〒980 仙台市青葉区二日町14-15
（アミ・グランデ二日町ビル3階）
TEL　(022) 261-3431(代)

新　潟　〒950 新潟市鐙西1-2-1
TEL　(025) 244-7188(代)

横　浜　〒231 横浜市中区尾上町4-47（大和横浜ビル3階）
TEL　(045) 663-1445(代)

静　岡　〒420 静岡市御幸町5-9（静岡FSビル7階）
TEL　(054) 251-7301(代)

名古屋　〒460 名古屋市中区丸の内1-4-12（アレックスビル4階）
TEL　(052) 239-1251(代)

金　沢　〒921 金沢市玉鉾町3-9
TEL　(0762) 91-1121(代)

広　島　〒730 広島市中区小町3-25（住金物産広島ビル1階）
TEL　(082) 247-3969(代)

高　松　〒760 高松市今里町1-17-20
TEL　(0878) 35-5568(代)

福　岡　〒812 福岡市博多区博多駅東2-2-2
（博多東ハニービル1階）
TEL　(092) 441-6121(代)

営業時間　新宿・大阪　10:00～18:00（日・祝日定休）
その他　9:00～17:30（土・日・祝日定休）

9223-2202-71（P9611-C611）